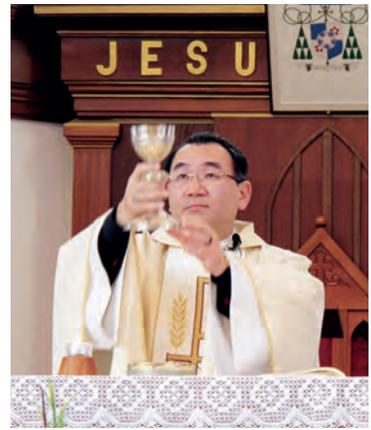


# カトリック 新潟教区報

## 新しい年の初めに



新しい年の初めにあたり、新潟教区のみなさまの上に、父である神の豊かな祝福と導きをお祈りいたします。

昨年末には、糸魚川市において大火がありました。糸魚川教会とその幼稚園は、北陸新幹線を挟んで火事の現場とは反対側にあり、直接の影響はなかったのですが、幼稚園の先生が家を失い、また園児の家庭にも被害が出ています。火災発生から一週間ほどして、私も岡神学生と一緒に糸魚川を訪ねてきました。強風の中あれほどの広範囲で火の手が上がっては、消火活動も困難であったことでしょうか。被害に遭われた多くの方々に、心から御見舞い申し上げます。

町の復興には長い時間がかかることが想像されます。今後、糸魚川教会の方々と一緒に、どのような形で被災された方々を支えることが可能なのか、探っていききたいと思います。さて、昨年末、十二月十四日と十五日に開催された司教総会において、司教団は、東日本大震災の復興支援活動を、二〇二一年三月末まで継続することを決定しました。

ご存じのように、東日本大震災発生直後から、日本のカトリック教会

新潟司教 タルチシオ 菊地 功

は被災地にある仙台教区が中心になって、被災された方々への支援活動を行ってきました。被災各県にボランティアのベースを開設し、全国の教会の総力を結集する形で取り組んでいます。この活動を「オールジャパン体制」などと呼んでいます。が、カリタスジャパンが国内外からの支援をとりまとめて、活動を支えてきました。

二〇一四年の司教総会では、この活動を二〇一七年三月まで継続することが決定していたのですが、その後、現場で働かれていますの方々の声を聞いたところ、少なくとも震災発生十年までは活動を継続するのがふさわしいということになり、今回の決定となりました。岩手県や宮城県では、ゆっくりとしてはいるものの、復興は少しずつ前進しています。しかし福島県においては、まだ将来を見通せるところには達しておらず、教会としては、これからも地元の方々とじっくりと歩みをとるべきだと考えました。その一つの目に見えるあかしが、福島県南相馬市



の原町教会敷地内に新築された、カリタス南相馬の建物です。新発田建設によって建てられたこの家は、ボランティアの拠点であり地域の集会所です。カトリック教会がじっくりと地元で根ざして支援を続ける決意の象徴です。

教会は地域に根ざして福音をあかす存在ですから、当然その重要な要素の一つである愛の奉仕も、地域に根ざしていなくてはなりません。どこからかやってきて、時間が来たらいなくなる存在ではなく、その地の人々とともに歩みをとるに活動でなくてはなりません。その意味で、今回の新しい建物の建築は、教会の姿勢を目に見える形であかししていると私は思います。

新潟教区は、被災地と背中合わせで南北に広がっているため、当初より、教区の活動を新潟で集中的に計画することはしてきませんでした。今後、それぞれの地区から、直接近隣の被災地への支援を、それぞれが出来る範囲で息長く継続していた

### 青年フィリピン体験学習旅行

(二〇一六年九月四日～十一日)より

青年たちが得た「思い」と「経験」を、是非、共有下さい。

### MCL滞在で感じたこと

古山 一輝

昨年の九月、フィリピンのミンダナオ島キダパワン市にあるMCL(ミンダナオ子ども図書館)を新津教会の伊藤神父様と教会の青年達とともに体験学習として訪問しました。MCLに住んでいる子ども達

だきたいと思えます。

なお司教団では、二〇一一年に発行されたメッセージである「いのちへのまなざし」を、時代の変化に合わせて改訂した生命の尊厳に関する新しいメッセージとして発表することにいたしました。新しいメッセージである「いのちへのまなざし(増補新版)」は、三月頃に発行される予定です。是非教区のすべての方に手にとっていただきたいと思えます。それではみなさま、この一年が、すべての人のために素晴らしい一年となりますように。

### 司祭人事

(一)内はこれまでの任務等十一月十三日付

《教区外への転出》  
▼楠 宗真師(山形教会(新庄巡回教会) 助任司祭) IIエズス・マリアの聖心会

が原因で親がどこかへ行ってしまうと、両親または片親がいなくて、非常に苦しい状況にあります。また彼らは異なる宗教(イスラム、カトリック、現地の信仰)を持っています。しかしMCLには全員のための共通のお祈りがありそれぞれの信仰を尊重していただきました。逆境の中でお互いの差異を受け入れて共同生活を送る姿は、まるでひとつの家族の様でした。

MCLの子ども達は皆とても純粋で優しく温かい心の持ち主でした。私はMCL滞在時に料理当番の子ども達と一緒に食事の準備をしていたのですが、お皿洗いを手伝っている時に「大丈夫？」と何度も質問され、私のことをとても気遣ってくれて驚くほどに感謝されました。しかしその時、なぜ彼らはこんなにも優しいのだろうか？ どうしてこんなにも幸せそうに暮らしているのだろうか？ と疑問を持ちました。そしてある子に「今幸せですか？」と質問しました。返ってきた返事は「お母さんが遠くに居て会えないから幸せじゃない。」それを聞いた時何も返す言葉が見つかりませんでした。毎日楽しそうに家族の様な仲間と一緒に暮らしてはいても、心の中では母親に会いたくて仕方のないひとりの子ども、なのだ、実感しました。



MCL最後のお別れ会では、涙を流して別れを惜しんでくれる子や、いつかMCLに帰って来てね、と明るく送り出してくれる子もいました。MCLの子ども達は笑顔で毎日暮らしていました。と同時に彼らが経験した厳しい現実を受け入れ、逆境の中で他者への優しさを育みながら、逞しく生きていきました。私も彼らのそんな逞しく生きる姿

から、人を助け、優しい心を持って生きていかなければならないと気付かされました。

### 国境を越えて繋ぎたいもの

新潟教会  
マリア・フランシスカ 三木さおり

二〇一六年四月、伊藤神父様から「フィリピンの子ども図書館へ行ってみない？」と誘って頂いたことが全ての始まり。日常では分からない何かを、離れたフィリピンで感じたい！ と思い「是非！」と返事をしました。

そして同年九月四日～十一日に、青年会のメンバー六人と、新潟教会の中林さんと伊藤神父様の引率でフィリピンへ。当時、滞在するダバオ市ではテロが起き、情勢が不安定で、私の心には不安・見えないものへの恐怖の気持ちがありました。いよいよ到着し、現地で働いている宮木梓さんが迎えに来て下さり、私たち青年は車の荷台に乗り発進！存分にフィリピンの風、街の匂いを体感している中、街には市民の安全を守るために銃を持った軍人があちこちに立っていました。それでも、ふと道沿いに目を向けると人々はいつも通りに日々を生きていて、私たちが滞在させていた「ミンダナオ子ども図書館(MCL)」の子どもたちは、想像以上に伸び伸びと元気一杯に私たちを迎え入れてくれました。笑顔で駆け寄ってきて「お名前は何？」「いくつ？」「よろしく！」とお互い手を握ったあの光景は、目を閉じると今でも鮮やかに記憶が蘇ります。一度挨拶したらもうお友達！手を繋ぎ歌いながら、敷地内を散歩して木の実を食べ、子どもたちと一緒に笑いあいながら遊びまわりました。

た。とはいえ、子どもたちは一人ひとりに事情があつて家族と離れて暮らしており、自ら話してくれてそつと寄り添ってくる子もいました。色々な宗教、事情をもった子どもたちが一つの場所でお互いを分かり合



い、団結して暮らしている、何にも代えがたい平和な時間がそこには流れていました。他にもフィリピンでは山間部の保育所へ行ったり、海岸沿いではこっちはカトリックの村、すぐあつちはムスリムの村という場所、皆さん会うと挨拶をしてくださいました。

国境を越えて、信じるものを越えて手を取り合う心は、日々の中でも決して忘れてはならないものだと思ひました。青年の仲間では今でも共に分かち合い、得たものを何とか生かしたいと一緒に考えています。子ども達も見守っていただけましたら幸いです。

### フィリピン体験旅行に よせて

新潟教会・新潟教区事務局

中林 務

今回、伊藤神父様を中心に、新潟地区の青年達と一緒にフィリピンの「ミンダナオ子ども図書館」に

訪問し、現地の子ども達と一緒に生活をし、深い感銘を受けて帰って来ました。

今回の体験旅行は本当のところ、私自身六十五歳のこの歳でこの様な強行スケジュールをこなす事が出来るのか、青年達と一緒に行動が出来るのか、また一週間前にギックリ腰になり体力的にも大丈夫なのか、一段と不安に成りました。しかし伊藤神父様には、九月であれば行く事が出来ると、安易な考えで簡単に了解してしまいました。実際の体験旅行は、教会での巡礼旅行と違って、六十五歳の私自身にとって大変大きな経験になりました。

この「ミンダナオ子ども図書館」の施設に入っている子ども達は、両親が殺されたり、迫害されたり、体に不自由があったり、迫害されたり、問題を抱えた子ども達です。しかし施設の中ではそんな事を感じさせないで、皆で協力し合いながら明るく生活を行っています。それは私達の訪問した時の夜の歓迎会は、施設の

子ども達(八十名位)で明るく歌ったり、踊ったり、また私の自己紹介を、日本語で話してもジェスチャーを見ながら理解してくれました。またある子どもの誕生日には、朝早く(午前四時三十分)から、施設の子ども全員で誕生日の子どもの入り口で、歓迎の歌を歌い全員でお祝いしていました。子ども達は、悲しいとか、寂しいとか、その様な態度は決して見せないで明るく生活を送っています。子ども達の澄んだ眼を見ると心が洗われました。

私自身この年(六十五歳)になって、今まで生きていた生活が如何に贅沢で、また幸せな人生を送ってきたのかと、初めて知らされた旅行でした。

今回参加した青年達も、自分の眼で現実を見、現地の子ども達と接して心に感じ、一緒に生活をして自分のまわりの環境を考え、これらの体験をこれからの自分自身の信仰生活に役だてて欲しいと思います。

### 「糸魚川大規模火災支援金」のお礼

この度は、昨年12月22日に発生した糸魚川大規模火災に教区内外より、心温まる支援金をご送金頂き、心から感謝御礼を申し上げます。集まった支援金は本部でとりまとめ、糸魚川教会を通して被災地の支援の為に使わせて頂きます。2017年1月31日現在、1,138,855円の支援金が集まりました。

- 〈ご送金頂いた個人・団体・教会関係の方々〉敬称略  
 橘依理子、聖体奉仕会、白崎宏子、オタワ愛徳修道女会、中川早苗、聖マリア在俗会、村崎俊一、遠藤智子、聖ラファエル幼稚園、カトリック篠ノ井教会、カトリック甲府教会、清稜監査法人、新潟カトリック女性の会、栃尾天使幼稚園、稲垣泉、ピース9の会久留米、カトリック葦崎教会、  
 〈新潟教区各教会〉敬称略  
 新発田教会、長岡教会、加茂教会、青山教会、柏崎教会、寺尾教会、能代教会、山形教会、高田教会、直江津教会、妙高教会、三条教会

なお支援金の受付は2017年3月31日までとさせていただきます。ご支援いただける方は下記口座までご送金下さい。

記  
 金融機関 郵便局 郵便振替  
 口座番号 00530-8-43589  
 口座名義 カトリック新潟教区

※通信欄に「糸魚川大規模火災支援」とご記入下さい。

心暖かい格別な協力に感謝するとともに、主の豊かな祝福をお祈りいたします。

カトリック新潟教区 司教 菊地 功

新潟地区

# 新潟地区信仰養成講座 『『ラウダート・シ』に学ぶ キリスト者の生きる道』開催



二〇一六年度の新潟地区信仰養成講座が十月二十九日(土)と十一月五日(土)の午後、新潟教会カトリックセンターのホールを会場に開催された。講座は新潟地区信徒使徒職協議会と新潟教会の共催で、菊地司教を講師に迎え、各回それぞれ六十名ほどの参加者が集まった。

教皇フランシスコは二〇一五年に回勅『ラウダート・シ』を発表、その日本語訳が昨年八月に刊行された。これを受けて、二〇一六年度のテーマは『『ラウダート・シ』に学ぶキリスト者の生きる道』。初回の冒頭、菊地司教は本回勅の全体像や発表までの経緯を紹介された。



回勅発表前から、教皇が「環境問題についての」文書を発表するといふことが一般の報道でも取り沙汰され、本回勅はそれぞれの立場により賛否両論をもって受け止められた。それは「地球温暖化や気候変動などの環境問題に対してどのような態度

をとるのか、教会がこの文書の発表を通して自らの立場を明らかにするもの」と理解されたからだといふ。しかし、この回勅を最後まで見ていくと、人間——直接にはキリスト者——はどのように生きるべきか、より幅広い視点から述べられており、菊地司教は「どちらかという二回目の内容のほうが皆さんにぜひ聞いてもらいたい内容になります」と語った。

初回は回勅の前半部分を取り上げられたが、ここでは私たちの「ともに暮らす家」である地球が今やどれほど傷ついているのか、その現状分析がなされている。しかもそれは、科学の知見に基づく指摘にとどまらず、「平和」や「貧困」との関係など、教皇ご自身の問題意識を反映するものとなっている。

二回目に取上げた後半部分では、創世記(一〜三章)から出発して、労働、富、テクノロジー、人間中心主義の問題が指摘され、それらを踏まえて「総合的エコロジー」が提唱されている。創世記一・二十六〜二十八について、教皇フランシスコは「これは(人間の本性を暴君的で破壊的なものとして描く)教会の理解する聖書の正しい解釈ではありません。わたしたちキリスト者が時に聖書を誤って解釈したのは事実ですが、今日では、わたしたちが神にかたどって創造された大地への支配権を与えられたことが他の被造物への専横な抑圧的支配を正

長岡地区

## 地区信徒養成講座を受講して

長岡教会 西山 清

二〇一六年十一月三日、妙高教会で開催の第十二回標記講座を受講しました。テーマは「聖体奉仕・みことばの祭儀について」で、講師は地区内の司祭が担当された。最初に信徒が招かれていた共通祭司職・預言職・王職について。①祭司職↓典礼奉仕を忍耐強くお捧げすることにより実現。②預言職↓それぞれの賜物により生活の場でキリストを証しする。③王職↓すべての人のしもべとなられたキリストに倣って仕え合う。信徒はこの三職を通して司祭に協力し、教会共同体に奉仕する。等々良く纏められた資料により解りやすく講話された。信徒の使徒職、感謝の祭儀、教会の源泉はミサ等も話された。次いで講師交代で日本カトリック典礼委員会著の「聖体授与の臨時の奉仕者に関する手引き」に基づき話された。近年、信徒が臨時に聖体授与を行うようになったため



実技の一齣

当化するとの見解は、断固退けられなければなりません。」(六十七)と指摘しておられるが、これは本回勅全体を貫く光のように思われた。折から、第二十一回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で採択されたパリ協定の批准・発効に向けた動きが報じられた時期でもあり、時宜に合った企画であったと思われる。会場では回勅『ラウダート・シ』——ともに暮らす家を大切に』の販売も行われ、多くの参加者が手に取っていた。(新潟教会信仰養成部)

フィリピンの方たちの感想  
・カトリックの信者として、いろいろなことを学んできたことを嬉しく思います。  
・初めての参加ですが、他の教会のフィリピン人たちと知りあって、そしていろいろなことを勉強して、感謝しています。  
・私の人生の一つの大事な体験でした。ロレンゾ神父様が私たちが招待したことも感謝しています。神



妙高教会の前で集合写真

様の言葉も勉強して、自分の信仰はもっと強くなった感じがします。  
 ・こういうセミナーは初めてで、感謝の気持ちでいっぱいです。  
 ・初めてのセミナーでしたが、新しい出会いができて、神様の言葉を学んできたことは本当にありがたいことです。ありがとうございました。

〳聖体奉仕者になってから、二年たちました。教会の活動にたくさん参加するようになって、神様のために働くのは光栄です。活動をしながら、神様の存在は身近にあると感じました。聖霊の力も感じられたのです。

今回のセミナーにはあらためて聖体奉仕者の役割を復習して、典礼に関する言葉も学んで、ますます聖体奉仕者としての勇気を与えられた気がします。頑張りますので、よろしくお願いします。〳

ミラ堀田

**長岡地区**

**婦人の集いを終えて  
 様々な気づき・恵みに満ちた一日を**

十月二十九日(土) 高田教会にて、第四十二回「婦人の集い」が行われました。今回は富山修道院の小川神父様を講師にお招きし、主題「ブラジルでの司牧」、副題「家庭司牧の活動を中心に」と言うテーマでお話しして頂きました。

印象的だったのは①「ブラジル人気質として完全を要求しない、不完全な所を皆で助け合って生きる」これは、完璧を求めていた私としては目から鱗のお話しでした。それから、②「自分を上に持ち上げて高所から見降ろしていかないか」、そういう言葉にもハッと致しました。③「教会は神父のものではない」、と言うお話があり、私達信徒も教会の事に関して無関心ではいけない、ちっちゃな事からでも出来る事をやっていかなければと思います。その他にも沢山のお話しを頂戴し、時間が足りなくなりました。せっかくなので用意して下さったパワーポイントが見られなくてとても残念でした。午後からの分かち合いも、各々のグループでは、色々なお話がとびかき楽しそうに「時間がたりないわ」等のご意見を頂きました。又、男性の方々のご出席も頂き、一日を通して神様のお恵みに満ちた私達でした。

今回、みなさまのご協力のお蔭で無事に終了することが出来ました。ありがとうございました。神に感謝、皆様へ感謝致します。

マリア会 碓井 睦代

**2017年 新潟教区会議・集会等日程**

○ 顧問会日程		
3月27日(月) 13:15 ~		新潟司教館
6月6日(火)		司祭の集い会場
7月10日(月) 13:15 ~		新潟司教館
9月4日(月) ~ 9月5日(火)		会場未定
11月20日(月) 13:15 ~		新潟司教館
(東京教会管区代表者会議 7月4日(火) ~ 5日(水) 会場 横浜教区)		
○ 評議会・司祭の集い等日程		
司祭評議会	3月27日(月) 15:30 ~ 3月28日(火) 昼食	新潟司教館
聖香油ミサ	4月12日(水) 10:00	司教座聖堂
宣教司牧評議会	4月29日(土) 祝日 10:00 ~ 15:00	新潟司教館
司祭の集い	6月5日(月) ~ 7日(水)	
司祭評議会	11月20日(月) 15:30 ~ 11月21日(火) 昼食	新潟司教館
○ 集会等		
ユスト高山右近列福感謝ミサ	2月10日(金) 11:00	司教座聖堂
合同洗礼志願式	3月5日(日)	司教座聖堂
米沢殉教祭	7月9日(日)	
さいたま教区・新潟教区司祭合同黙想会	9月25日(月) ~ 9月29日(金)	中軽井沢
○ 菊地司教小教区訪問日程		
日程	訪問教会	備考
1月15日(日)	三条教会	堅信式
2月12日(日)	新津教会	堅信式
2月19日(日)	新発田教会	堅信式
2月26日(日)	青山教会	堅信式
3月4日(土)	亀田教会	新潟地区大会
3月19日(日)	糸魚川教会	
5月14日(日)	山形教会	
5月28日(日)		長岡地区大会
6月25日(日)	土崎教会	秋田地区大会
9月23日(土)	加茂教会	50周年行事
10月1日(日)	新津教会	新発田地区大会
10月15日(日)	高田教会	堅信式
10月22日(日)	鶴岡教会	
10月29日(日)	酒田教会	
11月19日(日)	新庄教会	
11月26日(日)	新潟教会	王であるキリスト

2017年1月1日現在